

富山県高岡市におけるホクリクサンショウオの新産地

著者	南部 久男, 西岡 満
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	26
ページ	143-144
発行年	2003-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=788

短 報

富山県高岡市における ホクリクサンショウウオの新産地*

南部 久男¹⁾・西岡 満²⁾

富山市科学文化センター¹⁾, 高岡古城公園動物園²⁾

New Records of *Hynobius takedai* (Hynobiidae, Caudata) from Takaoka City, Toyama Prefecture.

NAMBU H¹⁾ and M. NISHIOKA²⁾

1) Toyama Science Museum,

2) Takaokakojo Park Zoo

ホクリクサンショウウオは、石川県能登半島と富山県に生息する(宮崎,1996; 南部, 1994,1997,2001; 富山県両生・爬虫類研究会,1987)。富山県での生息地は県中央部の丘陵地帯に多く、県西部での記録は少なく小矢部市からだけであった(南部, 1997)。今回、富山県西部の高岡市で生息を確認したので報告する。

調査地と確認状況

富山県西部の低山は石川県能登半島南部にある宝達山から南へと山並みが続き、小矢部市は、富山県西部のホクリクサンショウウオの生息地である(南部, 1997)。今回ホクリクサンショウウオの生息を富山県高岡市二上山周辺で確認した(図1)。二上山は標高274mの低山である。ホクリクサンショウウオは、二上山の同一水系内の最も大きな谷に合流する、奥行き300m、下流幅100mの枝の谷の2箇所と、奥行き100m、下流幅50mの枝の谷の1箇所と、二上山とは別の山塊の谷で卵囊や成体、幼生を確認した。それぞれの確認状況は次の通りである。

A地点

2002年3月24日調査。調査地は、谷に面した谷側の一辺19m、山側の一辺8.5m、奥行き18.5mのスギの植林がなされている放棄田である。放棄田内の長さ6m、幅20cm、水深8cmの溝の、約40cmの範囲に卵囊3対と対関係不明の4本(表1)、オス1個体(全長11.1cm、頭

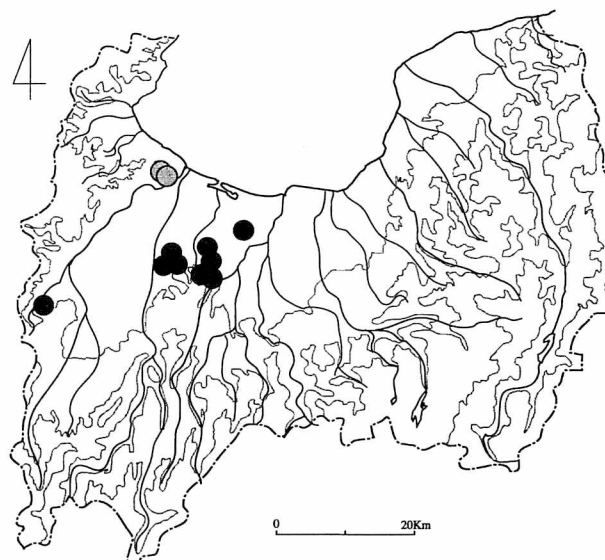


図1 ホクリクサンショウウオの新産地(薄い黒丸)。黒丸(●)は既知産地(南部, 2001による)

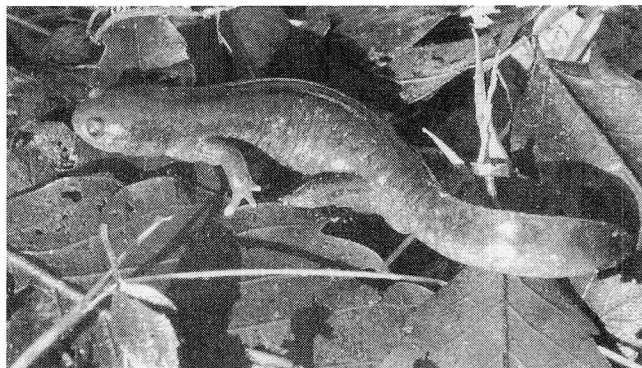


図2 発見されたホクリクサンショウウオの成体
2002年3月28日(A地点)

胴長5.7cm)を確認した。気温8.0℃、水温10.0℃、(15:00)。

3月28日調査。上述の溝に続く山際の長さ10m、幅20cmの溝で卵囊2対を確認した。この谷に隣接した道路脇のコンクリートの側溝(長さ8m、幅35cm、高さ25cm、水深5cm)の落ち葉の下からも卵囊4対、オス1個体を確認した。

B地点

5月10日調査。A地点下流の小さな谷に沿って流れる溝(幅約20cm)で沢野(1943)の発生段階st.59の幼生を2個体(全長21.5mm, 22.8mm)確認した。

* 富山市科学文化センター研究業績第289号

表 1 確認された卵嚢

A 地点

No.	卵数	死卵数	発生段階
1	39	3	38
	53	1	38
2	61	10	31
	57	2	33
3	(25)	2	33
	50	10	33
4	50	8	31
5	55	0	33-34
6	56	0	38
7	54	24	31

B 地点

No.	卵数	死卵数	発生段階
1	16	1	35
2	36	0	37

卵数は死卵を含む。発生段階は沢野（1943）のトウホクサンショウウオの発生段階による。括弧はちぎれた卵嚢内の卵数。

C 地点

3月31日調査。下流部の谷幅50m，奥行き100mの枝の谷にある休耕田と耕作田の間を流れる長さ30m，幅25cm，水深3cmの素掘の溝で，対関係不明の2本の卵嚢をそれぞれ離れた場所で確認した（表1）。

D 地点

6月6日調査。二上山に隣接する山塊の谷で幼生を確認した。谷は下流部の谷幅が約30m，奥行き約20mである。谷にある休耕田と耕作地の間を流れる長さ15m，幅20cm，水深3cmの素掘りの溝で，幼生を11個体確認した。その内2個体の幼生の発生段階は，いずれもst.64で，全長は40.9mm，50.2mmであった。

A，B，C地点は，二上山の同一流域の地点である。本調査地の谷の斜面はコナラ等の落葉広葉樹からなる二次林やスギ植林地である。谷の上流部や枝の谷は放棄田や休耕田となり，下流部は休耕田になっているところが多く，民家も見られる。谷を流れる小川や枝の谷の山際の側溝は素堀になっているところが多い。一部は両面がコンクリートになっている。今回調査した谷は二上山ではホクリクサンショウウオの成体が生息できる林や産卵場所があり，生活史を通じ生息できる環境が残っている。A地点の卵嚢数は，対関係不明の2本を一腹分とすると，合計7腹分である。

D地点は，A地点とは約3.7km離れた二上山の北に位置する別の山塊で，幼生が確認された谷周辺はスギ植林地である。

今後は，今回幼生が確認された地域の産卵数調査や周辺地域にも生息している可能性があり，生態調査を行う必要がある。

参考文献

- 宮崎光二，1996. 両生類.石川県の自然環境シズ. pp. 1-31. 石川県の両生・爬虫類.石川県.
- 南部久男，1994. 富山市におけるホクリクサンショウウオの産卵状況，卵数及び卵嚢の形態.富山市科学文化センター研究報告，(17):105-115.
- 南部久男，1997. 富山県小矢部市におけるホクリクサンショウウオの記録.富山市科学文化センター研究報告，(20): 109-110.
- 南部久男，2001. 両生類・爬虫類. 富山市科学文化センター収蔵目録第14号.105pp.
- 沢野十蔵，1943. 東北山椒魚の発生段階図. ぐろす文庫，pp. 7, pls.7. 札幌.
- 富山県両生・爬虫類研究会編，1987. 富山県の両生類・爬虫類. 富山県. 66pp.